

科目コード:130007

担当教員	市丸 徹													
実務経験														
開講年次	1年次前期			単位数			1			授業形態			演習	
必修・選択	必修			時間数			30							
該当ディプロマ・ポリシー	(1)		(2)	○	(3)	◎	(4)		(5)		(6)			
Keywords	解剖学、生理学													
学習目的・目標	解剖生理学演習では、解剖生理学と連携して講義を進め、人体が健康な状態を保つしくみを学びます。 【目的】 人体で生じる様々な生理現象のメカニズムを学び、体内環境の恒常性が維持されるしくみを理解する。 【目標】 1. 恒常性の維持に関わる生体調節について、関与する複数の器官の役割を交えて説明できる。 2. さまざまな生理的指標の正常値を説明できる。													
授業計画・内容														
回	内容													
1	人体の基本構成			身体構成成分、体液の区分と組成、細胞の構造										
2	細胞膜のはたらき			細胞膜の構造とはたらき、静止膜電位と活動電位										
3	神経組織のはたらき			神経系の組織構造、神経伝導、神経伝達										
4	筋収縮のしくみ			筋組織の分類、骨格筋の構造、興奮収縮連関、筋の疲労										
5	関節の構造と動き			関節の種類と構造、主な関節運動										
6	中枢神経系のはたらき			大脳皮質の機能局在、脳脊髄液の流れ										
7	自律神経系のはたらき			自律神経の構造、自律神経の作用										
8	心臓の拍動するしくみ			刺激伝導系、心筋細胞の特徴、冠循環										
9	血液のはたらき			血液の成分、血液細胞、止血と血液凝固、血液型										
10	呼吸調節のしくみ			ヘモグロビンの性質、呼吸ガスの運搬、呼吸中枢										
11	消化と吸収のしくみ			消化液の性質、消化液の分泌調節、栄養素の吸収										
12	血糖値の恒常性			吸収後の栄養素の利用、血糖値調節に関わるホルモン										
13	尿生成のしくみ			ネフロンのはたらき、尿成分の調節に関わるホルモン										
14	体液の恒常性			体液浸透圧の調節、体液量の調節、血圧調節										
15	骨の構造とはたらき			骨の組織構造、Ca代謝の調節										
教科書	なるほどなっとく！解剖生理学(改訂2版)、多久和典子、多久和陽著(南山堂、2019) 教科書とあわせて、各回で講義資料(PDF)を配布します。													
参考図書等	系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能①、坂井建雄、岡田隆夫著(医学書院、2022) 解剖生理学ワークブック、坂井建雄、岡田隆夫編(医学書院、2019)													
評価指標	成績評価対象者：出席2/3以上。課題提出者。 講義終了後に試験を実施します。 試験80%、課題20%で評価します。													
関連科目	解剖生理学、代謝と栄養、解剖生理学実習、疾病障害論、人間病態学、他多数													
教員から学生へのメッセージ	解剖生理学とともに、医療職を目指す者には欠かせない基礎知識となる科目です。丸暗記では足りず、理屈を正しく理解することが求められます。時間の限られる講義では、理解を深めることに重点を置きます。基本的な用語やしくみは教科書・参考書・動画・配布資料等を活用してあらかじめ自分で学んでから、講義に臨みましょう。 大学では、人から教えてもらうのではなく、自ら学ぶのだ、という意識を高く持ってください。その上で、たくさんの質問が来ることを期待してお待ちしています。													